

**秋田県八峰町及び能代市沖における協議会
漁業影響調査検討委員会（第４回）**

○日時

令和８年９月１日（火） １３時３０分～１４時４０分

○場所

山本地域振興局 ３階大会議室
（一部の構成員等はＷＥＢ会議形式にて参加）

○参加者

秋田県産業労働部クリーンエネルギー産業振興課 花方政策監
秋田県農林水産部水産漁港課 藤田政策監
合同会社八峰能代沖洋上風力 山田 代表社員・職務執行者
合同会社八峰能代沖洋上風力 岩澤 許認可マネージャー
合同会社八峰能代沖洋上風力 石井 許認可チーム
秋田県漁業協同組合 清野 代表理事組合長
秋田県漁業協同組合 工藤 北部地区運営委員（八森地区）
秋田県漁業協同組合 庄内 八森浅海組合
秋田県漁業協同組合 小林 北部地区運営委員（岩館地区）
秋田県漁業協同組合 小林 岩館浅海組合
八峰町峰浜漁業協同組合 塚本 代表理事組合長
秋田県内水面漁業協同組合連合会 湊屋 代表理事会長
米代川水系サクラマス協議会 湊屋 会長
秋田県鮭鱒増殖協会 須田 会長
秋田県水産振興センター 高橋 総務企画チーム主任
秋田県水産振興センター 奥山 資源部長
公益財団法人海洋生物環境研究所中央研究所 島 参与
長崎大学海洋未来イノベーション機構
環東シナ海環境資源研究センター 河邊 センター長・教授
経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課風力政策室
佐藤 係長（※）
国土交通省港湾局海洋・環境課海洋利用調査センター
竹吉 専門官（※）

能代市農林水産部農業振興課 網濱 主事（※）
能代市環境産業部エネルギー産業政策課 能登 主査（※）
八峰町農林水産課 加藤 係長（※）
八峰町商工観光課 長門 主査（※）
（※ オブザーバー）

○議題

（１）第４回漁業影響調査検討委員会の趣旨説明及び 2025 年度実施の漁業影響調査の調査結果について

- 秋田県農林水産部水産漁港課より、第３回検討委員会で承認いただいた調査計画に基づき、２０２５年４月から工事前調査のうち１年分の調査を実施し、２０２５年度の調査が完了したため、調査結果を報告する旨を説明。
- 合同会社八峰能代沖洋上風力より資料３について説明。

○質疑・応答

秋田県漁業協同組合

- 今回は工事前の調査ということであるが、何も獲れなくて調査ができなかったということもあると思う。工事前・工事後の両方で魚が獲れないとなった場合、どのような判断をすることになるのか。例えば、ハタハタは現在、ほとんど漁獲が無い状態であるが、工事前調査で漁獲が無い場合、どのような判断をする事になるのか教えていただきたい。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- 現時点でどのように評価するかははっきり言及できないが、最後にご説明した通り、今後も関係者の皆様からの聞き取り調査や環境調査を実施して、その結果を勘案し、皆様のご意見や有識者の先生方のご意見も聞きながら総合的に評価を進めて行ければと考えている。有識者先生から評価についてコメントあればお願いしたい。

長崎大学海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター

- 調査デザインの根幹に関わる重要な質問であるが、データに変化が見られない場合に工事前後で「影響なし」と整理してよいか、また欠損データがある場合には評価が困難となる点も含め、慎重に検討すべき論点である。
- 例えば、ハタハタについては、近年、温暖化等の影響により漁場が沖合化し、接岸しにくくなっているとの情報がある。本データでも北部では漁獲がある一方、南部では漁獲が少ない状況が見られる場合、魚の分布状況は追加調査等で魚がどこに行ったか把握する必要がある。漁具にかからないだけで周辺に分布している可能性もあるため、必要に応じて追加調査や周辺情報の収集等によりフォローアップし、変化の背景を確認することが重要である。
- 単に「魚がいなくなった」という結果のみで影響を評価する事は困難である。

米代川水系サクラマス協議会

- 当協議会の要望を踏まえて取組を進めていただいていると認識しており、感謝する。
- 調査とは別件だが、サクラマスやアユの遡上時期に、モノパイル打設等の振動を伴う作業を実施することは回避できるのか。
- 基礎施工にあたり、概ね2～5月頃の遡上期を避けて作業時期を設定できるか、現時点で回答可能な範囲で教えてほしい。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- 現在、施工計画を検討中であるため、現時点で確定的なことは申し上げられない。当該海域での工事は、海象条件の良い時期を見極め、安全に実施することが重要であると認識している。
- ご懸念については承知しており、工事の安全性確保および工程管理（遅延回避）の観点から、引き続き検討していきたい。

米代川水系サクラマス協議会

- 今後、海面漁業者からも要望が出る可能性もあるため、その点も含めて引き続き検討をお願いしたい。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- プランクトン調査のデータにおいて、近年問題となっている「アオコ」はどこに分類されているのか。風車設置前後のアオコ発生の有無を問われた際に確認しておきたい。

公益財団法人海洋生物環境研究所中央研究所環境グループ

- 漁業影響調査の１年目として、概ね順調に進捗しているとの印象である。
- 本調査は、漁業への影響を直接把握する操業影響調査であり、漁業者の皆様の協力により作成した漁場マップは非常に貴重なデータである。欧州では洋上風力の導入が進んでいるものの、操業影響を直接評価した事例は多くないことから、こうした取組を丁寧に進めることは重要であり、日本としての進め方と考える。
- 漁場マップにはビジネス上の機密情報が含まれると考えられる中で、ご協力いただいたことに感謝する。事前・工事中・事後で同様の調査を継続することにより、漁業への影響の有無を把握することが本調査の基本となるため、今後とも協力をお願いしたい。
- 漁獲データは膨大であり、解析の方法によって多面的に活用できるため、データを確実に集積し、変化が疑われる点を適切に捉えられるよう調査・解析を進めてほしい。
- 本調査は、「変化がないこと」を確認する枠組みであり、変化が認められた場合には、結果を踏まえて詳細調査を行う流れになると考える。まずは、変化を的確に捉えられるよう、調査を継続していただきたい。

公益財団法人海洋生物環境研究所中央研究所環境グループ

- 本調査では膨大なデータが収集されていることに加え、漁業者の皆様が多忙な操業の中でタブレット等を用いて調査に真摯に協力されたと伺っており、そのご協力に感謝申し上げます。
- 漁場マップについて、魚種ごとの分布状況が把握できている。今後は、季節による分布の変化も含め、委員会の場でデータを確認しながら、漁場マップを比較して、何がどのように変化したかを議論していくことになる。

- 漁場マップは漁業者の生業に直結する情報であり、外部公表が難しいことは理解しているが、可能な範囲で今後共有に同意いただける場合には、情報提供に協力をお願いしたい。
- ヒラメの月別CPU E（漁獲量）について、まず、太平洋側のヒラメ漁獲の季節変化と類似した傾向が見られ、5～7月に第1の漁獲ピークが確認できる。
- 秋季（11～12月）のデータは、時化等の影響でデータが取れていないと理解しているが、秋にもピークが生じる可能性があり、この点も太平洋側の傾向と整合的である。
- 産卵期にあたる5～7月に漁獲が増えるのは、魚の移動が活発になることと関係している可能性がある。
- 漁法別・漁協／地区別に見ても違いが見られ、重要なのは、魚種の分布（いつ・どこにいるか）だけでなく、季節に応じた行動特性（移動が活発な時期／滞留する時期）を踏まえ、風車建設後に漁場利用や漁獲のされ方がどのように変化するのか、あるいは変化しないのかを継続的に確認することである。
- 季節別の漁場マップと、標本船調査による月別CPU E等を突き合わせて検討することにより、仮に漁獲特性の変化が生じた場合には、風車周辺への蛸集・滞留等の可能性も含めた考察につながり得る。
- 以上の観点から、本データは委員会で継続的に議論し、解釈や仮説を整理しながら、今後の変化を確認していく必要がある。

米代川水系サクラマス協議会

- 35ページの生物影響調査において、「肉食性魚種を対象に胃内容物分析を行った結果、サケやアユの稚魚は確認されなかった」とあるが、ここでいう「肉食性魚種」とは具体的にどの魚種を指すのか。教えてほしい。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- ヒラメ、カレイ類が中心となっている。

米代川水系サクラマス協議会

- スズキといった回遊性の魚種ではなく、定着性のヒラメ、カレイ類が中心という事なのか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- 胃内容分析調査を行った対象としては、スズキも含んでいるため、全くないということではない。

米代川水系サクラマス協議会

- 量的にはカレイ、ヒラメが多いということか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- そのとおりである。本調査では、事業区域において、実施頻度の高い漁法で多く漁獲されている魚種を中心に対象を選定しており、結果として、その他の魚種についても胃内容物調査を実施している。

米代川水系サクラマス協議会

- アユの遡上期には、スズキが河川上流まで遡上することがあり、アユを捕食することはよく知られている。こうした魚種も調査対象（漁獲対象）に含めれば、より明確なデータが得られる可能性があるのではないか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- ご意見として承った。

秋田県鮭鱒増殖協会

- 山形県では、酒田市の最上川周辺から稚魚調査を実施しており、概ね沖合約 1 km 付近で採捕を行っている。耳石標識により、稚魚がどの孵化場由来かは判別可能な状況となっている。
- 39 ページでは稚魚の捕獲地点が比較的浅場に設定されているように見えるが、浅場で調査を実施した意図と経緯は何か。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- 本調査手法を採用した経緯としては、稚魚調査の実施方法について、とある専門家の意見を踏まえた上で、当該手法を選定している。

秋田県鮭鱒増殖協会

- 沿岸を稚魚が泳いでいるといった指導があったということか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- それが直接の理由というわけではないが、陸側から実施でき、かつ確実な捕獲が可能な手法として、今回は地曳網を採用している。

秋田県鮭鱒増殖協会

- 沿岸域を調査対象とすることについて、根拠をもって「この海域を調査すべき」といった指導・助言があったという理解でよいか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- それも要因の一つであるが、加えて、安全に実施でき、かつ確実に捕獲できる調査とする観点から、今回の手法を選定している。
- 稚魚調査の手法に「必ずこの方法で実施しなければならない」という定めはないため、当SPCとしては、過去の同様調査において前述の専門家から得た意見等を踏まえ、本手法を採用した。

秋田県鮭鱒増殖協会

- 仮に稚魚が沿岸部を回遊しているのであれば、これまでの前提や考え方を見直す必要があると感じている。
- 他海域では、水深約10m付近で工事に着手するという話も聞いていることに加え、来年4月から施工開始する旨の説明もあった一方、本事業については工事着手時期の説明が無いが、現段階では未確定という理解でよいか。

合同会社八峰能代沖洋上風力（事務局）

- 現在、事業工程を見直し中であるため、工事に着手可能な時期について本日は説明できない。
- 水深10mより浅い海域には風車を設置しない計画であるため、改めて確認いただきたい。

○今後の検討委員会の進め方

秋田県産業労働部クリーンエネルギー産業振興課（事務局）

- 次回の検討委員会については、今後、事業スケジュールが明確となった段階で、改めて相談の上、開催を調整したい。

以上